

平成 30 年 8 月 24 日

南の風 279

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

アカツキファイブ女子の観戦記のため、通常号の間が空いてしまいました。278号の続きです。

速攻がランニングシュートや、ノーマークのドリブルシュートで決着することは少ないと思います。実力差がない場合、相手も必死で守るわけですから、オフェンス側には速攻からトレイルプレイやアーリーオフェンス、またはフロントコートへの確実なボール運びが要求されます。

私は速攻のボール運びは、何らかの約束事が必要だと思っています。チームの実態に合わせることは言うまでもないのですが、ミニバスや中学生の場合、この約束事を決めるのが難しいのです。

例えば、パスでボールをつなぐ方がドリブルで運ぶよりも速いことは、誰しも分かっています。机上の論理からすれば、バックコートからフロントコートにワンパス、ツーパスでつなげられれば、ディフェンスが帰陣する前に数的優位な状態で攻めきることができます。

しかし、パスプレイは経験の浅いカテゴリーのスキルとしては、定着までにかかなりの時間が掛かるのです。パスはパッサーとレシーバーとの共同作業ですから、パスの出し方、ボールのキャッチは言うまでもなく、高いレベルでタイミングや状況判断が要求されるのです。となると、ボールキープ力のあるガードがドリブルで運ぶ方が安全ということになり、ドリブルエントリーが増えることになります。

実際、今大会（中学校の横浜総体）を観ても、ドリブルエントリーが多かったです。それぞれのチームで信頼のおけるガードに運ばせていたチームがほとんどでした。

私は、運びは基本的にフィギアエイトを中心に指導しています。

例えばリバウンドからの速攻ですと、リバウンダーがボールを掴みそうになったら、攻撃するリングに近い選手二人がそれぞれのサイドライン沿いを走るランナーとなります。残りの2人も、サイドラインにオープンに開きます。リバウンダーは攻撃するリングを見て、タッチダウンパスを狙います。パスできなければ、サイドにアウトレットパスです。それもできなければ、ドリブル突破かドリブルアウトレットします。（ここではフィギアエイトの詳細は割愛します）

このようにパスでつなぐことを中心に指導しています。中々思うようにいかないのが現状です。しかし定着することを固く信じて取り組んでいます。

速攻のボール運びに正解はありません。指導者がチームの実態を見て、どうボール運びを成立させるか考えることが大切です。

さて、どのようにボールを運ぶにしても、フロントコートへ素早くタイミングよくエントリーしないとオフェンスが機能しません。パスエントリーでもドリブルエントリーでも共通して大事なことは、速攻からアーリーオフェンスやトレイルプレイに移行したり、フロントコートにボールを進めたりする時に、レシーバーがしっかりVカット、Lカットしてボールミートして受けることです。簡単なことのように、しっかりできているチームは少なかったです。レシーバーの準備がないのにパッサーがパスしてしまったり、レシーバーがしっかりミートしているのにパスのタイミングが遅れたりして、ターンオーバーになる場面が数多く見られました。